

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

為替週間展望 = ドル円は 118 円台を中心とするもみ合いか

[3月21日からの1週間の展望]

| 週間高低 (カッコ内は日) | | 3月14日～3月18日 | | | | |
|-----------------|-----------|-------------|------------|--------|---------|------|
| | 始値 | 高値 | 安値 | 終値 | 前週比 | |
| ドル・円 | 117.28 | 119.12(16) | 117.28(14) | 118.78 | +1.49 | |
| ユーロ・ドル | 1.0898 | 1.1137(17) | 1.0898(14) | 1.1091 | +0.0179 | |
| ===== | | | | | | |
| 国内株・金利 / 米国株・金利 | | | | | | |
| | 終値 | | 前週末比 | | 終値 | 前週末比 |
| 日経平均株価 | 26,827.43 | +1664.65 | 日本10年債利回り | 0.210 | +0.025 | |
| ダウ平均株価 | 34,480.76 | +1536.57 | 米10年債利回り | 2.171 | +0.179 | |
| ===== | | | | | | |

<来週の主要経済統計等>

- 21日 NZ 2月貿易収支
英 3月ライトムーブ住宅価格
独 2月生産者物価指数
パウエル議長講演 全米企業エコノミスト協会 (NABE) の年次会合
- 22日 ユーロ圏 1月経常収支
カナダ 2月鉱工業製品価格
- 23日 日本 1月景気動向指数改定値
英 2月消費者物価指数、英 2月生産者物価指数、英 2月小売物価指数
米 2月新築住宅販売件数
- 24日 スイス銀行 (SNB) 政策金利
独 3月製造業 PMI 速報値、独 3月非製造業 PMI 速報値
ユーロ圏 3月製造業 PMI 速報値、ユーロ圏 3月非製造業 PMI 速報値
英 3月製造業 PMI 速報値、英 3月非製造業 PMI 速報値
米 2月耐久財受注速報値、米新規失業保険申請件数、米第4四半期経常収支
米 3月製造業 PMI 速報値、米 3月非製造業 PMI 速報値
- 25日 英 2月小売売上高
独 3月 ifo 景況感指数
米 3月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値

【前回のレビュー】ドル円は7日に115円台を回復すると上昇基調で推移しており、116円乗せの後も堅調な流れを見せている。3月のFOMCでは0.25%の利上げとなりそうだが、インフレ高進への警戒感が示されるようだと一段と上昇する可能性が高まるとした。

【FOMCでは0.25%の利上げを決定】

3月15～16日の米連邦公開市場委員会 (FOMC) では、市場予想の通り0.25%の利上げを決定した。FOMCメンバーによる政策金利見通し (いわゆるドットチャート) では、今年末の政策金利の予想中央値は1.875%となり、今年末までに7回の利上げを見込んでいる。なお、来年は3～4回の利上げを見込んでいる。

パウエル議長は記者会見で、経済の強さやインフレ率の高さを考慮すると今後の会合でも利上げを続けるのが適切と述べた。また、バランスシートの縮小は早ければ5月の会合で開始を決定するとしている。ウクライナ情勢に影響に関しては、原油やコモディティ価格の上昇に加えて、海外の経済活動が縮小して、サプライチェーンが一段と混乱する可能性があるとしている。

今年の米国内総生産（GDP）成長率は+2.8%と予想しており、前回予測（+4.0%）から下方修正した。なお、来年は+2.2%と前回予測と同水準となった。今年の物価上昇率は+4.3%と前回予測（+2.6%）から大幅に上方修正した。今年の失業率は3.5%として、前回予測（3.5%）と同水準としており、堅調な雇用情勢が継続するとの見方が示された。

このところロシアとウクライナの停戦交渉が進展するとの期待感もあり、米国株は堅調な推移を見せている。一時130ドル前後まで急騰していた原油価格も90～100ドル台まで下落している。2000ドルを超えていた金価格も1900ドル台で下落している。米国の先物市場ではNY改質ガソリン、NYプラチナ、NYパラジウム、シカゴ小麦などもピーク時からは下落している。コモディティ価格の急騰がそのまま落ち着きみせるかどうかは不透明だが、上昇が一服すると時間をかけてインフレ圧力は徐々に後退してくるとみられる。

米国では利上げ局面に入っているものの、日銀は今後も緩和的なスタンスを継続する可能性が高い。18日の日銀金融政策決定会合の結果発表でも金融政策は現状通りとなった。FRB、欧州中央銀行（ECB）、英中銀（BOE）など各国では金融政策正常化へ向けて動き出しているものの、日銀のスタンスは対照的に緩和的であり、他国通貨と比べて円が相対的に弱い状況は継続しそうだ。

こうした状況を背景にドル円はドル買い円売りのスタンスが継続して、16日に一時119.12付近まで上昇して、2016年2月以来、6年1か月ぶりの高値圏まで上昇した。このところは上昇が続いてきたことで、短期的な過熱感から調整する可能性も高い。ドル円は底堅いものの、テクニカル面での過熱感も強く、118円台を中心とするもみ合いが続くとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、116.50～119.75円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、23日に日本1月景気動向指数改定値、米2月新築住宅販売件数、24日に米2月耐久財受注速報値、米新規失業保険申請件数、米第4四半期経常収支、米3月製造業PMI速報値、米3月非製造業PMI速報値、25日に米3月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値などがある。

【ユーロドルは方向感を探る動きか】

ユーロドルは1.1000ドルを挟んでの振幅を見せている。ウクライナ情勢の緊迫化やドル買いの動きがユーロドルの重石となってきた。ロシアとウクライナの停戦交渉進展への期待感などもあり、売られたところでは下げ渋るなど底堅い動きにつながっている。ただ、ユーロ圏でのインフレ率の上昇やウクライナ情勢を受けての景気減速への警戒感は今後もユーロの上値を抑える要因となりそうだ。

ユーロドルはウクライナ情勢に関する報道やユーロ圏での経済指標の結果に左右されて、1.1000ドルを挟んで方向感を探る展開が見込まれる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0900～1.1250ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、21日にNZ2月貿易収支、英3月ライトムーブ住宅価格、独2月生産者物価指数、22日にユーロ圏1月経常収支、カナダ2月鉱工業製品価格、23日に英2月消費者物価指数、英2月生産者物価指数、英2月小売物価指数、24日にスイス銀行（SNB）政策金利、独3月製造業PMI速報値、独3月非製造業PMI速報値、ユーロ圏3月製造業PMI速報値、ユーロ圏3月非製造業PMI速報値、英3月製造業PMI速報値、英3月非製造業PMI速報値、25日に英2月小売売上高、独3月IFO景況感指数などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

～ノルマ～

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。